

山口カトリック教会報

サビエルの鐘

第32号



神の子らのいのちと喜び

主任司祭 百瀬 文晃

『サビエルの鐘』という表題ながら、記念聖堂の鐘で時間を告げるメロディーが妙ですね。鐘を打つハンマーの一つが動かなくなっています。修理のできる職人がなかなか見つからないのだそうです。機械だから、いつか具合が悪くなるのは仕方がないとはいえ、世の人々に希望を告げるはずの鐘です。高齢化の進む教会の姿(?)と思われるのであればいいのですが。

復活祭とこれに続く復活節は、日本ではいつも春の美しい季節と重なって、木々の新芽やあちこちに咲きみだれている花が、神さまのいのちの息吹きを感じさせます。

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くのかを知らない」(ヨハネ3・8)と言われるように、神さまの働きは私たちの知らないところで、今も、いつも新しいいのちを与え続けています。

ひょっとしたら、一息つく暇もないまま新年度と復活祭を迎えてしまったという人は、私だけではないかもしれません。あるいは、体の衰えと疲れのために無感覚になってしまって、ただ何となく時の移り変わりを傍観している人もいるかもしれません。

しかし、復活節は仕事に追われる日々や、ものう

い倦怠の生活の中で、神の子らのいのちと喜びを取りもどす時ではないでしょうか。神さまの創造の息吹きをいっぱいを受けて、新しい年度に力をいただきましょう。

今年は11月にパパさまの訪日を控えています。また、それに先立つ7月末に、イエズス会のソーサ総長が日本にこられます。ソーサ神父さまは広島から福岡に向かわれる途中、8月3日午後、ぜひサビエルの由緒ある山口を訪問したいとの意向です。暑い時ですが、詳細が決まったら皆さまにお知らせします。

山口教会は初期イエズス会のサビエルによって創設されただけでなく、1923年に広島教区(当時は代牧区)が大阪教区から独立したときから、イエズス会に委ねられてきました。ドメンザイン神父さまをはじめ、多くの懐かしい神父さまがたが力を尽くして宣教と司牧にあたられた教会です。現在は列福運動

が進んでいるアルペ神父さまも、戦時中

に主任司祭を勤められ、スパイと疑われて投獄されたとき、信徒の人たちが監獄の周りで、神父さまに聞こえるように大きな声で聖歌を歌ったと伝えられています。私たちはこの機会に、山口教会のすばらしい伝統を思い起こし、新たに聖霊の息吹きをいただく機会としたいと思います。



パオロ・ヴェロネーゼ

受洗おめでとうございます
これからよろしくお祈りします



No Image

倉重 小百合
マリア・フランチェスカ

昨年からカンガス神父様と鳥海様のご指導で、妹と一緒に勉強させて頂いております。聖書を学び、神さまの温かい愛にふれ、

そしてみなさんとのご縁を繋いで頂き、とても幸せに思っています。私にとって教会は心のよりどころです。ありがとうございます。このたび姉妹そろって洗礼を授けて頂けることに感謝しています。どうぞよろしくお祈りいたします。

No Image

上田 美由紀
マリア・アンジェラ

聖書に興味を持ったのが中学生の頃で、いつか山口教会に通える日が来れば良いなとずっと思っていました。長い月日

が過ぎていきました。昨年、姉の連絡から始まり、代母の鳥海様を通じカンガス神父様との勉強会に参加できる運びとなり、このたび受洗させて頂けることになりました。携わってくださった方がたに、心から感謝申し上げます。

山口教会の皆さんへ

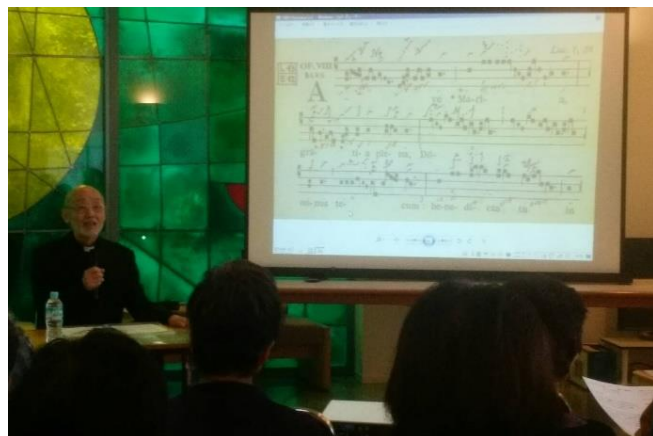
神様からの召命を感じながら、どうして良いかわからず、月日が流れていたところへ、神様の計らいで私が倉重さんの所へ寄りましたら、キリストの御絵が置いてあったことがきっかけで、カンガス神父様の土曜会に招待し、それから妹の上田さん、倉重さん、私の三人で勉強会が始まりまして、1年と少し。三人とも仕事をしながらの勉強会でしたが、お二人はカンガス神父様を慕い、この1年間、熱心に通って来られました。洗礼により山口教会の信徒となり、新しい一步を踏み出されます。妹の上田さんは今年介護福祉士の試験に合格され、福祉の世界で信仰の証しをしていかれると思います。倉重さんも深く勉強し霊性を高めていかれると思います。新しく生まれ変わったお二人が、末長く教会と共に生きて行かれることを願います。

(代母・鳥海三重子)

四旬節黙想会

3月10日(日)、東京在住の京都教区司祭、著書「よい音楽は神の姿を映し出す」で知られている国本静三神父様をお迎えし、黙想会が行われました。京都の手描き友禅作家の家に生まれ、ヴァイオリンをこよなく愛し、音楽家を目指しながら司祭になられました。美術と音楽があふれた環境で育ち、信仰の確かな裏付けとなったと話されました。

「音楽は真善美の神の姿のように思います。」という神父様の書かれた記事を読み、是非とも黙想会にお招きしたいという願いが叶い、有意義な一日を迎えることができました。(寺岡恵美/典礼部)



国本静三神父 (ダミアンホールにて)

一度のぞいてみませんか

私は空っぽの信者です。信者として恥ずかしい事ですが、聖書も一部しか読んだことがありませんし、お祈りもまともにできません。受洗も、他の方のように「私は〇〇で神さまに救われた」という立派な理由や体験があるわけでもありません。でも、ごミサに与ると、とても心が落ち着き、聖歌で高揚し、神父様のお説教に感動します。ことばではうまく言えませんが教会内の空気感が好きです。そんなわたしがなぜ社会教説に携わっているのか？その理由も実はよく解りません。広島に生まれ育った私の中に、非核や平和への思いが根付いているのかもしれない。



中井 淳 神父
(下関労働教育センター)

《世の中と神の国は対立するもの。》神の国に対立する世の中で、どうやって生きていけば神に寄り添えるかを考える会が社会教説ではないかと思えます。前回の中井神父様のお話の中に「あなたはあなたのままでいい」という言葉があり、こんな私でも神さまは暖かく許してくださるんだと思えてほっとしました。何をやる会か解らず参加したことがない方、まだ身近には感じられていない方、漢字が4つ並んで難しそうに見えるかもしれませんが、中井神父とともに敷居を掘り下げてお待ちしておりますので、ぜひ次回の社会教説に来てみてくださいね。

次回は5月26日(日)ミサ後の予定です。(本田ユミ/社会教説)

センター聖堂モザイク壁画修復の試み

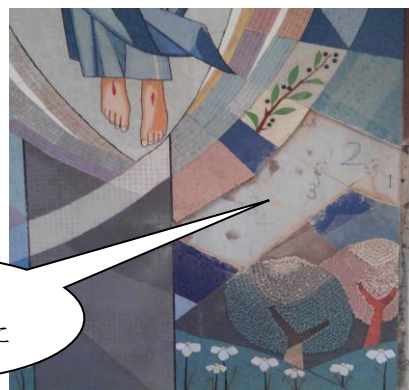
センター聖堂モザイク壁画の修復・移設に向けて、4月13日、総勢11人で修復のための試行作業を行いました。ほこり舞う中での作業でしたが、協力が実を結び、なんと、この日の試みは成功しました。

剥落防止にポリプロピレンのカバーフィルムを貼ってモザイクを固定し、切り出しやすいピースごとに電動器具で切り目を入れた後、壁面から剥離します。約1時間かかって、4つのピースを無事に壁から切り離すことができました(写真参照)。

この日の試行から予測すれば、信徒の手でモザイクをセンター聖堂の壁から剥離することができそうです。今後は、参加くださる信徒のグループを作って、修復作業を進めることになると思われます。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。(首藤久子/運営委員会)



この部分を
剥離しました



被災地支援「東北の日」



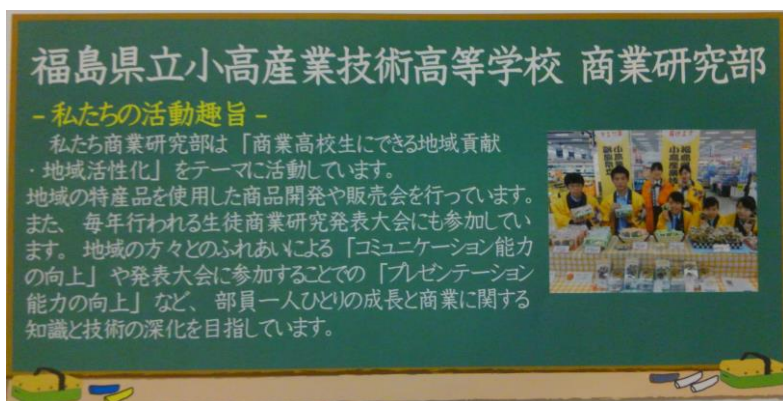
岩手の大槌ベースは、津波の大災害で町全体が被害を受けました。ボランティアは、社協からの依頼や教会ボランティアベースの指示で、草取り・傾聴・河川敷整備、ワカメの選別・学童保育など何でも引き受けました。残念ながら岩手カリタス大槌ベースが昨年春に閉鎖され、以降は福島のカリタス南相馬ベースに活動拠点を移しました。

昨年暮れ、たまたま福島の道の駅に寄った時に、特産の大根を使ったかりんとうを高校生が作っているのを知りました。その福島県立小高産業技術高校はクラブや授業で商品開発して、特産のカボチャを使ったまんじゅうやタルトがあることを知りました。被災している生徒が多いことも知りました。

今年の3・11には、少しでも励みになればと、大根かりんとう・まんじゅう・タルト等を取り寄せ、皆さんに買っていただきました。私たちも支援が重荷になることが時としてありますが、後を引き受けてくださる方がおられないまま辞めてしまうと、教会はその都度の対応になってしまうでしょう。東日本大震災から8年が経過し、時とともに世間の関心が薄れていっているのも事実でしょう。

でも、今なお避難生活を余儀なくされている方もおられます。東北の災害は忘れてはいけなと思います。「継続は力なり。」そのためにも、微力で頼りない私たちですが、コツコツ細く長く続けていかなければと思います。今後も被災地のために皆さんのご協力を得ながら、「東北の日」をよろしくお願いたします。

(瀬川憲明／山口・島根地区被災地支援委員会)



行事予定

- 4月29日(月) 9:30～サビエル記念聖堂献堂記念ミサ、ミサ後お祝い会
- 5月3日(金) 乙女峠まつり(津和野)
- 5月18日(土) 紫福・中山祈念地ミサ
- 6月2日(日) 信徒総会
- 5月～毎月第2土曜日 信徒養成研修(百瀬神父)

編集後記

二人の司祭から、図らずも共通して聞いた言葉、「sursum corda(心を上げよ)」。心が一気に膨らむ、輝くような言葉。空に向かって枝を伸ばす大樹にイメージが重なりました。常盤公園に移植されたバオバブの樹も、空に向かってそびえ立っています。(気の毒なことに、高すぎて移植の際に短くされたそう。) 厳然としているのに、滑稽さもあって、陽気で明るい。私もこんなふうに、神さまの呼びかけに手を伸ばして、「sursum corda」でいられたらいいなと思います。(首藤)

発行 山口カトリック教会
 発行責任 主任司祭 百瀬 文晃
 編集責任 山口カトリック教会 広報部

〒753-0089 山口市亀山4-1
 tel. 083-920-1549
 hp検索 山口カトリック教会
 e-mail xavier@xavier.jp

2019年4月21日発行